



畜産

乾乳期の管理について

畜産課 新崎



1. 乾乳期間のポイント

- 牛群を分けて盗食に注意し、設計通りの飼料給与ができるように管理
- ボディコンディションに注意し、オーバーコンディションにならないように管理
- ビタミンA・Eの不足に留意し、場合によってはビタミン剤を給与
- 良質粗飼料を給与し、給与回数を工夫するなどして乾物摂取量の落ち込みを抑える
- 密飼いを避け、寝起きが楽にできる環境を整える
- 乾乳前は過肥に気を付け、ボディコンディションをコントロール

2. 乾乳前期の管理ポイント

- 給与飼料の80~85%を粗飼料とし、ルーメン機能・容積の回復を図る
- 配合飼料は夏期1~2kg程度、冬期2~3kg程度給与
- 乾物摂取量を落とさないように、体重の1.5~2%を確保する
- カルシウム蓄積のため、カルシウムを必要量給与



5月の果樹園管理

営農指導課 村上



防除・施肥管理・栽培管理

品目	管理内容	農薬・肥料・資材名	倍数・施肥量	対象病害虫・目的
みかん	【着果が多い樹】 窒素主体の即効性肥料を施用する。 (窒素成分4kg/10a)	モスピラン顆粒水溶剤 フロンサイトSC オリオン水和剤40 ナリアWDG アプロードエースフロアブル エムダイファー水和剤	3,000倍 2,000倍 1,000倍 2,000倍 1,000倍 600倍	ケシキスイ類 そうか病 灰色かび病 アザミウマ類 そうか病 灰色かび病 カイガラムシ類 黒点病
	【着果が少ない樹】 立枝、被さり枝、花に被さり影をつくっている枝を除去する。	ナリアWDG クレフノン	2,000倍 200倍	灰色カビ病 花カス落とし
デコポン	【着果が多い場合】 ・Jポーラス1袋/10a ・ターム水溶剤1,000倍(満開10日~50日迄) 【着果が少ない場合】 ・ジベレリン液剤25~50ppm(開花期~満開10日後迄)	アフェットフロアブル コルト顆粒水和剤 ペルクート水和剤 デランフロアブル ハチハチフロアブル ジマンダイセン水和剤 ストロビードライフロアブル オリオン水和剤40 ロブラー水和剤 フェニックスフロアブル フェニックス顆粒水溶剤 スコア顆粒水和剤 スカウトフロアブル コルト顆粒水和剤	2,000倍 4,000倍 1,000倍 1,000倍 2,000倍 600倍 3,000倍 1,000倍 1,000倍 4,000倍 4,000倍 2,000倍 2,000倍 2,000倍	黒星病 アブラムシ類 シンクイムシ類 黒星病 黒星病 アブラムシ類 炭そ病 炭そ病 カイガラムシ 炭そ病 シンクイムシ類 モモハモグリガ コスカバシカ 灰星病 シンクイムシ類 カイガラムシ類
梨	・満開30日後ころから本摘果を開始。1果そう1果になるように行う。(早生品種を優先する。) ・黒星病の発生果、葉は園外に持ち出し処分を行う。			
柿	・枝の中心部の蕾を残し1枝1蕾に制限。 ・渋柿の場合は、無着花新梢を含め全体の枝の1/3は実をつけないようにする。			
桃 (ハウス)	・収穫30日前頃からかん水量を減らし、収穫20日前頃から水切りを行う。			
李	・曇天が続きそうな場合は、数日早めから行う。			

※ 農薬使用・混用について不明な点がございましたらJA指導員もしくは営農センターにご相談ください。

農作業メモ

普通作

水質汚濁防止等について

農産課 酒井



いよいよ田植えシーズンを迎える中で、農作業の事故防止はもとより、「自然にやさしい農作業」にご協力ください。

『農薬等の取扱いについて』

- 農薬等の河川への飛散や流れ込みの危険性がある場合、散布を中止しましょう。
- 使用後の農薬容器・袋を放置したり、残液や器具の洗浄液を河川・水路等に流さないようにしましょう。

『水質汚濁防止について』

- 水田水張り前に、あぜ塗り(補修)などを徹底し漏水を防ぎましょう。
- 代かき作業時は、排水口に土盛りなどを行い、落水を極力減らすなどの対策をお願いします。



花卉の栽培管理について

営農指導課 宮木



○全般

スリップス、ダニ等の微小害虫発生が多くなっています。薬剤により害虫の密度が高くならないよう初期防除に努め、圃場廻りの除草・薬散も行ってください。薬剤散布の際は、系統の異なる農薬のローテーション散布に努めてください。

○菊の育苗について

親株養成の際は、前作で問題のあった株については健全な株に更新し、圃場の肥培管理・排水対策は十分に行ってください。また、採穂する2~3日前の天候が良い時に、殺菌剤及び殺虫剤の散布を必ず行ってください。芽なし系の品種については、高温になると側枝の発生が鈍くなりますのでハウス内温度が上がりすぎないように注意してください。

採穂は晴天日、露がとれ乾いた状態で行います。太くて芯が空洞のもの、極端に小さいものは除去し、老化していない、充実した無病の穂を折り取ります。挿し穂の長さや太さはできるだけ揃えておかないと後の生育も不揃いとなります。挿し芽の際は、挿し穂を殺菌・殺虫剤液等に浸漬処理し、ヤケ防止のため必ず遮光資材等を用いてスムーズな活着を心掛けてください。

○8月盆栽用菊について

夏菊の「晃花の宝」については、5月10日頃まで、夏秋系の「精の光彩」については4月25日頃までに定植を行ってください。また、粒剤を使用し害虫の初期防除の徹底をお願いします。



スイカ・アスパラガス・イチゴの管理について

営農指導課 松本



『スイカ』

(成熟期の管理について)

- 成熟期(交配後35日)には、温度・湿度・水分を低めに管理し、極端な蒸し込みは避け、ツルの維持を図る必要があります。又、この時期株元からの側枝は完全に除去し、肥大の促進を図ってください。肥大が悪い場合は早めに玉直しを行い、ツル先の確認を行ってください。
- 収穫10日前くらいからは、日中は30°C、夜間は12°Cを目標に管理し、急激な温度変化は二次肥大を引き起こす可能性がありますので、葉色や側枝の伸びを見ながら温度調節を行ってください。外気温が高くなってきたらハウスの両側換気を必ず行い、夜間の最低温度が15°C以上になったら夜間でもハウスのサイドは閉めきらずに管理してください。
- 植え替えを行う圃場につきましては、1番果の残渣は害虫発生の原因となりますので、株処理と共に2番果への害虫防除の徹底をお願いします。

『アスパラガス』

(立茎開始後の管理について)

- 立茎開始後は高温障害防止のため、内張は4月上旬頃を目安に除去してください。
- 立茎中はかん水を控えめに行い、梅雨時期に入る前までの立茎完了(摘芯)を目標としてください。
- 茎枯れ病・斑点性病害の発生抑制のために、立茎開始直後から予防防除の徹底をお願いします。

『イチゴ』

病害虫の多い時期なので、早期の予防・防除を行ってください。又、最低気温が10°C以上であれば夜間もハウスを開放してください。軟化玉対策は、十分な換気と遮光資材を活用し、カルシウム剤・ケイ酸カリ剤を施用しましょう。

(育苗管理について)

- ひのしづく: 4月20日までのランナーを除去し、5月中旬から採苗を開始してください。
- ゆうべに・恋みのり: 4月下旬に二次親株を切り離し、5月中旬までに親株を確保してください。

ランナーの発生が悪い場合は、発根剤の葉面散布等で展開・ランナーの発生を促してください。